

SAKAE GREEN NEWS

今月の特集： マツ枯れ最新ニュース

平成31年1月号

株式会社 サカイグリーン 富山市野々上150番地 ISO9001/14001取得 TEL(076)434-0036 FAX(076)434-4968

全国のマツ枯れの動向をチェック！

今回は2018年のマツ枯れに関するニュースを集めてみました。全国的には被害は減少しているものの、被害増加の地域もあり、油断はできません。

農経しんぼう第3247号 2018年11月19日

H29年度マツ枯れ被害の状況【全国】

林野庁が公表した「平成29年度森林病虫害被害量について」で、松くい虫被害量がここ数年減少傾向であることが明らかになった。しかし全国的には被害減となったものの、増加している地域もあり、新たな被害地も発生しているため、引き続き対策と監視が必要である。「森林病虫害等被害対策事業」を継続して実施し、平成32年度までに保全すべき松林の被害率を1パーセント未満の微害に抑制することを目指していく。

全国的には
被害は減

「森林病虫害等被害対策事業」とは？

マツ枯については、薬剤散布によるマツノマダラカミキリの殺虫や樹幹注入剤によるマツノザイセンチュウ予防、被害木の伐倒・くん蒸・破碎・焼却などの駆除に対する予算措置が採られている。

京都新聞 2018年8月2日

松枯れ深刻 天然記念物の自生地守れ【滋賀】

滋賀県湖南市の美松山（びしょうざん）にだけ群生する国の天然記念物であるウツクシマツ。1980年には約250本が自生していたが、約20年前からマツクイムシの影響などで松枯れが進み、現在は移植した株も含め約150本に減った。

市は、自生地の保全や観光活用策を練る有識者らの計画策定委員会を設置し、会合にて松枯れ防止対策を確実に実行することを確認、今後3年かけて、保存活用計画を策定する。

新たな被害
の発生・進行

毎日新聞 2018年11月24日

江の島危機！？マツ枯れ進行【神奈川】

神奈川県藤沢市の江の島にある龍野ヶ岡自然の森で、松枯れが進んでいることが分かった。

信濃毎日新聞 2018年9月30日

新たな媒介者出現？！【長野】

高標高での発生
と新しい媒介者

松枯れ被害の原因となるマツノザイセンチュウが県内で初めて、塩尻市と上伊那郡箕輪町で捕獲されたカラフトヒゲナガカミキリの体内から検出された。

マツノザイセンチュウを主に媒介するマツノマダラカミキリは、県内の標高800メートル以下の地域を中心に被害を広げているとみられている。カラフトヒゲナガカミキリはより冷涼な場所に生息するため、県内の標高800メートル以上の地域でも広がっている松枯れ被害に関係している可能性がある。現在のところ、カラフトヒゲナガカミキリが媒介し、松枯れ被害が広がっている事例は国内では確認されていない（韓国では、媒介して松枯れが広がっている事例がある）。

無人ヘリによる
防除の有効性

中日新聞 2018年5月23日

三保松原 無人ヘリでマツ枯れ激減【静岡】

世界文化遺産・富士山の構成資産である三保松原（静岡市清水区）を保全するため、2014年度から実施している無人ヘリでの防虫薬剤散布が効果を上げている。マツ枯れの主因であるマツノザイセンチュウの被害が抑えられ、マツの被害は導入3年で8割以上減った。

市は2005年度までは地上と有人ヘリから薬剤を散布し、2005年度の被害は147本だった。有人ヘリからの散布による住民への影響を心配する意見が出たため、2006年度から有人ヘリの使用を中止し、地上散布のみへと切り替えた。すると被害は847本に急増。2007年度はさらに1755本まで増えた。その後も年に数百～一千本の被害が出ていた。

こうした中、市は、有人ヘリより小回りが利き、マツに接近して薬剤をまくことができる農業用の無人ヘリに着目。2014年度から導入すると、2103年度に792本あった被害は266本に減少。2016年度はさらに減って105本となった。



- 樹幹注入材の中でもトップシェアの実績を誇る「グリーンガード」シリーズ
- 「グリーンガード・NEO」は、従来品「グリーンガード」「グリーンガード・エイト」よりもコンパクトで、また寒冷地でも問題なく施工できます。
- 樹体に直接注入するので、ドリフト（飛散）などの心配がありません。
- 一度施工すると予防効果は7年間持続します。

※病気などで弱っている松へのグリーンガードの施工は不適です。

- 内容成分：酒石酸モランテル 20%
- 毒性：普通物
- 包装：90ml/本、50本入り/ケース

作物名	適用害虫名	使用時期
マツ	マツノザイセンチュウ	マツノマダラカミキリ 成虫発生3ヶ月前まで

使用量	
胸高直径（樹幹部）	薬量
10～15cm	90ml
15～20cm	135ml
20～25cm	180～270ml
25～30cm	270～360ml
30～35cm	360～450ml
35～40cm	450～540ml

※40cm以上は5cm増すごとに0.5～1.5アンプルを順次増量

グリーンガード・NEO ～施工の流れ～



■まれに、樹体内の薬剤分布に偏りが生じて部分枯れが発生することがあります。また、薬効が登録期間よりも長く続く場合もあります。